

2005年8月27日 長野開田高原

いっそう悪路となってカーブも増える林道は次第に高度をあげながら上方へと続く。右側が広く開けた谷を見下ろせ、左山斜面に大きなコンクリート吹き付けの防護壁が設けられた、いかにもチョウが集まりそうな場所に出る。わずかに木陰となったカーブ奥に車をとめて、しばらくこの場所でチョウの現れるのを待つ。時刻は9時半頃でそろそろチョウの活動時間帯だ。防護壁の上方はまさに信州の高山地帯を思わせる、白樺などの樹林が美しい緑を重ね、その根元周辺の地肌あたりでヒカゲチョウの仲間が見慣れない飛翔で活動をはじめ。やがて、じわじわと防護壁にそって下へとおりてくるが、あいかわらずどこか落ち着きのない、上下に浮いたり沈んだりの不安定飛翔の繰り返しで、岩肌にとまるようなそぶりもみせない。この岩場環境、そして今のおかしな飛翔形態、もしかしたらツマジロウラジャノメかもしれない。そういう目でみれば確かに前翅にわずかに白紋があるようだが、鮮明ではない。そうか、これは♂なんだ。片手にはネット、そしてどこかに止まればカメラに納めようと待機するうち、チョウは山肌にとまったランダム飛翔から、とつぜん道路側へと飛び出し、谷側へと降りそうな情勢に、カメラをあきらめネットで追う。軽い上昇気流もあってチョウが再び道路上へともどったところを横払いでネットイン。その瞬間、まちがいなくツマジロウラジャノメのうすい白紋をはっきりと視認する。ところがここで思いもしない出来事が。なんと、ネットの中には目的のジャノメチョウだけではなく、キベリタテハが入っているではないか。ジャノメチョウのみをねらって振りぬいたネットに、全く、視野に入っていなかったキベリタテハがなぜ入りこんだのか。奇跡のような偶然で捕獲したキベリタテハは後翅縁がわずかに汚損した個体で、やはり発生タイミング的にはここに来るのが遅かったことを思わせるが、その遅かったことが逆に予期しなかったツマジロウラジャノメに出会えるチャンスともなったラッキーを喜ぶ。この岩場はツマジロウラジャノメの発生地が近く、しかも時期的にちょうどタイミングだったらしく、このあと白紋が目立って美しい♀もあわせて複数頭が同じような場所から現れ、岩場づたいに同じような飛翔をみせてくれ、道路横瓦礫地の葉っぱ上で休む♂を撮影する。



Aug.27,2005 開田高原



車をとめた場所にはネジレソウがきれいなピンクの花を咲かせていて、カーブ位置から上方を望むと、かなりのぼった位置にガードレールが見え、さらにその上にはいかにも高山地帯を思わせる緑の山肌がうかがえる。例によって、まだ行っていない場所に何か新しい発見がという探索魂でどんどん先へと

進んでみる。車で行ってもいいのだが、歩きの方がとっさの行動に移れるから。道はうすぐらく湿った場所と、日当たりのいい場所が交互にあらわれる形で高度を上げる。湿った場所にはアサギマダラが多く、ふわふわと飛び出てくる。日当たりがよく、右斜面に適度の草原が広がる場所の、ずっと高い位置にツマジロウラジャノメが飛ぶ。下へとおりてくるかもとねばるうち、林道

前方へと降りてどんどん先へと飛ぶ。白紋がくっきりと目立つメスで、飛翔時に前翅の白紋が目立ってとてもきれいにみえるホタルガを、もっと大きくした美しい飛翔である。朝一番に岩場でみた飛翔からは想像しにくいかなりのスピードでどンドンと先へと進むチョウを、当方も全力で追いかけて、ようやくネットインを果たす。飛翔時にみえた白紋はみごとに大きく、新鮮美しいメスである。

北海道では富良野から南下した千呂露川流域でこのチョウを探して結局は出会えなかった筆者にとって、ずっと幻のチョウに君臨していた種であり、開田高原でこんなに簡単に出会えるとはまさに想定外。



Aug.27,2005 長野開田高原

裏面